

患者家庭などを訪問

公害対策連水俣病調査団

自治労を中心につくっている全

国公害対策連絡会議の水俣病調査団（団長若林博太郎自治労本部自治研事務局次長）の一行五十人が十二日水俣市を訪れた。

一行は新潟・阿賀野川有機水銀被災者の会副会長橋本十一郎さん（ふら）新橋水俣病や富山イタイイタイ病、四日市ゼンソクなど全国の公害地の患者、支援団体のメンバーで、チッソ水俣工場正門で集会を開いたあと、市役所、リハビリテーション、訴訟派の患者家庭を訪ねた。

市役所では渡辺助役（たけ）に会い、市議会（市議）は訴訟派、一任派を平等

に扱えといっている。補償処理委

の手算を市が負担するのなら、訴

訟派の裁判費用も援助すべきだ」

と二時間にわたり、話し合った。

これに対し渡辺助役は「市議会の

「平等に扱え」という要望が具体

的にどんなものか、十六日に市議

会公害対策特別委員会が開かれる

ので、その席上聞きたい。援助に

ついての回答は十六日まで待つて

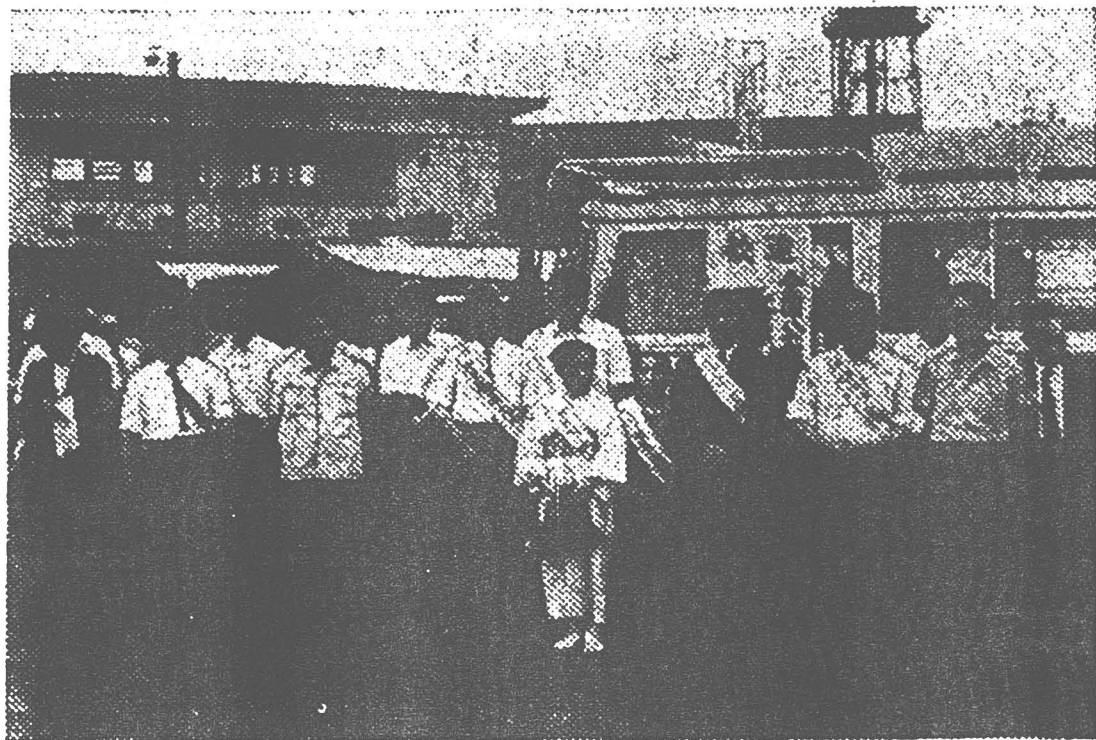
ほしい」と答えた。

しかし「出すのか出さないのか

はつきりせよ」「水俣市が水俣

病に対してあいまいな態度をとっ

ていたから、新潟でも同じ水俣病



チッソ前で開かれた調査団の歓迎会

が発生したのだ」など激しく迫るひと聲もあった。

結局話し合いは平行線をたどり、最後に調査団側は「援助せよ」との要望書を提出して交渉を終わった。

午後七時からは市公会堂で県民会議、市民会議、調査団の合同集会が開かれ、各公害地の体験報告を行なったあと、熊大教授森田誠一氏の講演を聞いた。

十三日は午前九時から市公会堂で水俣病患者を囲んで交流集会を開き、決議を採択する。